

為濃方 友原 宣勝のぶかつ 内膳 長盛
長男 一子 一子 一子 一子 一子 一子
す慶長十七年 從五位下 為濃方
子 叙任 一子 寬永九年 十二月 封を
つゝ 同十年 四月 大垣を あつた
の 播磨國 龍曲 に 移り 同十三
年 六月 撰津國 高槻 子 移り
同十七年 九月 和泉國 岸和田城

その後きたれ一万石を加へ賜ひりす
へて六万石餘を領す寛文元年
十月改仕して可堅と號し同
八年十月十九日七十二爲り
て卒す

一 嶋原のとき

大猷院様酒井讃岐守殿に上意ふ
由譜代の内を嶋原(遣はせ)しき事何

母と向を並支度御ふしき事ふや
思部員濃右是を聞て兼て用意
致立し家来とも方二早飛脚を
以て申越大坂に出合は如く申付
しき事あり私事作付しにゆを今日申
ふしき事出づきのより申上り差濃守
申儀申越嫌し思ふされし後一万
石の加増して岸和田に遣はされしと

あり 寛永開書

織田

源五平長益なかまハ後のち有信のぶ秀ひで十男
あり元正十年兄信長生害の後豊
臣秀吉ひでゆきノ属しゆト振津國ふりつのうぢに
テ二千石を領知す其後從四位下
佑從すけ子みこ叙任しよト刺髮しんぱつトテ五樂ごらくト
號せり慶長五年關原せきがはらの役やくハ
東照宮とうしょうみやノ志しトりヒ奉ほう里りテ軍功